

ぼ っ

【高学年 2 - 1】

- より生活に身近な資料を用いた指導 -

(1) 主題名 心をかよわせて〔2 - 1〕

(2) ねらい 礼儀正しく、相手の立場に立って心のこもった接し方をしようとする態度を養う。

(3) 資料名 「ぼっ」

(4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主 な 発 問 と 児 童 の 心 の 動 き	留 意 点
導 入	1 世界のあいさつについて知る。	世界のあいさつを紹介します。 ・ ニーハオ（中国） ・ ポンジア（ブラジル）	人と人との出会いはまずあいさつから始まることを理解し、本時への関心を高める。
展 開	2 資料「ぼっ」を聞き、話し合う。	ぼくが林さんと出会ったとき、正直いやだなあと思ったのはどうしてでしょう。 ・ 何か口うるさくいわれそう。 ・ あまり人と話したくなかった。	児童の経験から、ぼくの思いに共感できるようにする。
	3 心が「ぼっ」としたときのことについて考える。	林さんと話をした後、どうして心が「ぼっ」として温かくなったのでしょうか。 ・ 自分の話を聞いてくれる人がいてうれしかった。 ・ 心が通じたような気がした。 ・ 友だちに会ったような気持ちになった。	林さんとの心のふれあいに心が温かくなったのももちろんであるが、あいさつを交わしたことのすがすがしさも押さえない。 ぼくが、あいさつや声をかけることに対して前向きになっていることに気付かせたい。
	4 自分たちの生活を振り返って話し合う。	あいさつや会話をかわして気持ちよかったことはありませんか。 ・ 近所の人と話をし、楽しかった。 ・ 朝、自分からあいさつをして相手からあいさつが返ってきてうれしかった。	あいさつや近所の人たちとの会話についての経験がたくさん出るようにしたい。
終 末	5 教師の話を聞く。	・ 自分の方から声をかけてみよう。	児童が自分から声をかけていこうという意欲につながるような話をする。

ぽっ

今日は、運動会の代休で学校は休み、家族は仕事に出かけていて一人だった。昼ご飯は、コンビニに行き弁当を買ったようにと昨夜言われていた。マンションのエレベーターで階下におり、歩いて近くのコンビニに行く。

弁当を買ったの帰り、エレベーターの中で、同じ階の林さんにあった。林さんは町内会長をしていて、たしかぼくのおじいちゃんと同じ年である。

林さんは、いつも声をかけてくれる。いや、声をかけてくれるというより、口うるさく注意されることの方が多い。「自転車をきちんと止めよう」「落ちているゴミは気づいたら拾おう」などなど、よくいろいろ気がつくなあと感心するほどである。そんなときは、心の中で「うるさいなあ。」とつぶやいて、知らん顔をすることもあった。今朝も正直言って「いやだなあ。」と思った。

「こんにちは。今日は学校は休みかい？」

「あつ、こんにちは。昨日運動会だったので、今日は代休なんです。」

「そうか、運動会は楽しかったかい。」

短い時間であったが、エレベーターの中で、いろいろお話をした。林さんは、自分のまごの話などもしてくれた。別れ際、林さんは頭を下げ「さようなら」と見送ってくれた。ぼくも思わず「さようなら」と頭を下げた。ぽつと心が温かくなった。

昼ご飯を食べながら、ふと考えた。そういえば、今日半日でぼくが話をしたのは、林さんが最初だったなあ。起きたときには、両親はもう家を出ていたし、コンビニに行くときにも同じマンションの人とすれ違ったが、あいさつもしなかった。コンビニでも無言だった。「お弁当は温めますか。」の質問に首を縦にただけだったからなあ。

ぼくの心の中には、林さんと話をしたときの「ぽっ」が残っていた。

活用に生かすための実践報告

「ぽっ」

1 主題の設定

・あいさつは基本的な人と人とのコミュニケーションの手段である。しかし、核家族化、近所づきあいの薄さなどから、日常生活の中で、人々があいさつをし、声を掛け合い、心のふれあいをする機会が減ってきているように思う。

・本資料は、そのような日常の一コマを取り上げた。その日、誰とも言葉を交わさなかったぼく（主人公）が、林さんと出会い、話をし、あいさつを交わすことで心の中に温かいものを感じるという話である。

・子どもたちは、学校の行き帰りのあいさつはできるが、家族や近所での日常的な会話やあいさつに続き一言を添えるという経験をもつ子は少ない。

・そこで、本資料によって、少しでも、心のこもったあいさつ・接し方をしていこうという態度を育てたい。

2 指導過程の工夫

・導入で世界のあいさつを紹介することであいさつについての関心を深めたい。

・やりとりの場面では、役割演技・動作化などを取り入れることも考えられる。

・展開の後段や終末で児童作文・日記を活用する方法もある。

3 発問の工夫

・中心発問「林さんと話をした後、どうして心がぽっと温かくなったのか」は、あいさつ（心のふれあいも含む）のよさにぼくが気付くところである。ぼくの喜びの気持ちをたくさん出すことで、あいさつについての価値感を高めたい。また、その後「この後どんなことを考えたでしょう」の補助発問を用意し、中心発問で高められたあいさつについての価値観を受け、あいさつについての前向きな思いを出させたい。

4 児童の反応（授業後の感想）

・「今度から自分から進んで声をかける」「あいさつは大切」「お店に行ったらありがとうと言いたい」などあいさつや会話をしていくことに前向きな感想が多く出た。

・自己の振り返りでは、日頃のあいさつについての経験が多く出された。

5 実践者からの一言

・高学年の児童によくある内容を取りあげたため、主人公に共感しやすい資料であった。

・主人公の心のゆれなどの場面がなく、山場に欠けた。指導方法、学習スタイルなどの工夫が必要である。

・本資料は、近所の子どもの姿や自分の姿、そしてよく声をかけてくれるお年寄りの姿をもとにして自作したものである。（津田小学校 石川和明）